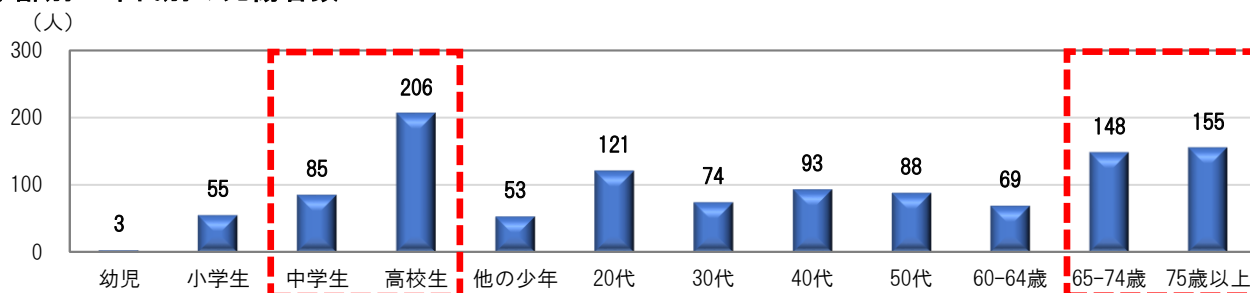


自転車乗用中に死傷した交通事故の分析結果について ～過去10年間（平成26年から令和5年）の分析～

1 学齢別・年代別の死傷者数

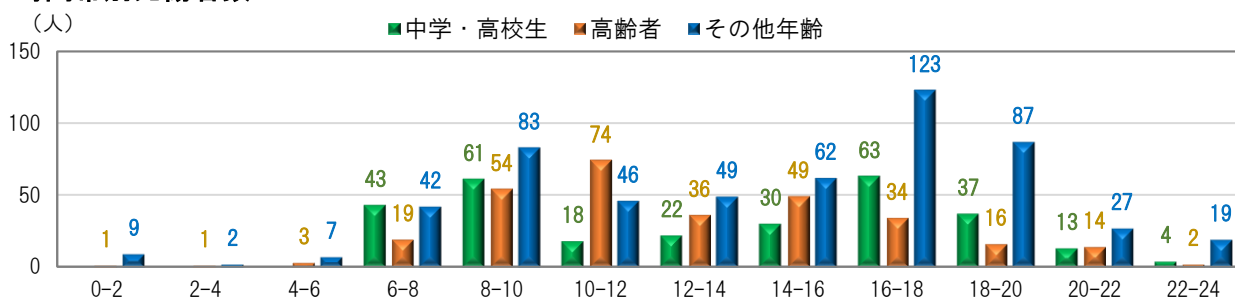


	幼児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	他の少年	20代	30代	40代	50代	60-64歳	65-74歳	75歳以上	合計
死傷者数	3	3	2	13	11	15	11	34	27	24	76	66	64	53	121	74	93	88	69	148	155	1,150
うち死者数						1				1	1				1			2	4	7	7	24

- 過去10年間で、自転車乗用中の交通事故による死傷者数は1,150人、うち24人が亡くなった。
- 高校生の死傷者数が206人と最も多く、中学・高校生が全死傷者の25.3%を占める。
- 死者24人中、65歳以上の高齢者が14人（58.3%）、60歳以上では18人（75.0%）と高齢になるにつれ、死者数が増加している。

2 中学・高校生と高齢者の自転車乗用中交通事故の特徴

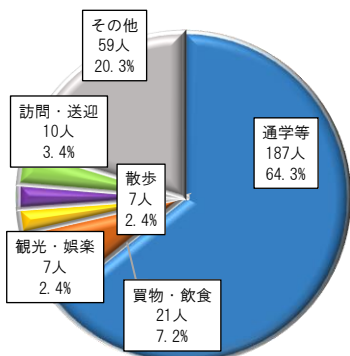
(1) 時間帯別死傷者数



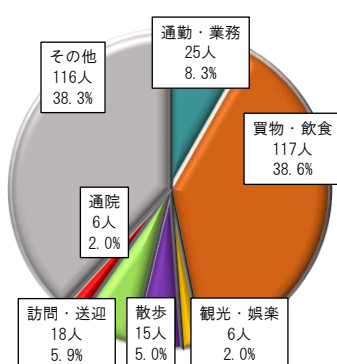
- 中学・高校生は16時から18時までの間が63人と最多で、次いで8時から10時までの間が61人
- 高齢者は、10時から12時までの間が74人と最多で、他の時間帯と比較して被害が顕著

(2) 通行目的別死傷者数

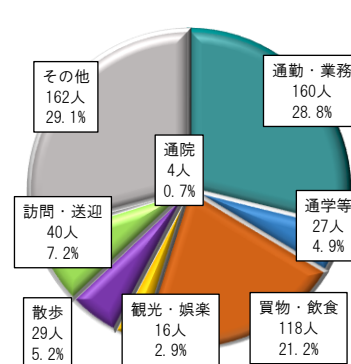
ア 中学・高校生 (291人)



イ 高齢者 (303人)

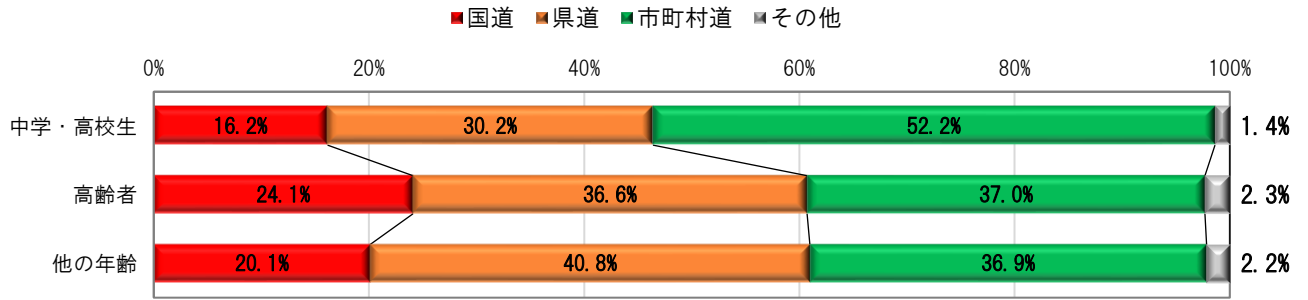


ウ 他の年齢 (556人)



- 中学・高校生は、通学中（登下校等）が187人（64.3%）と最多
- 高齢者は、買物・飲食が117人（38.6%）と最多

(3) 路線別死傷者割合

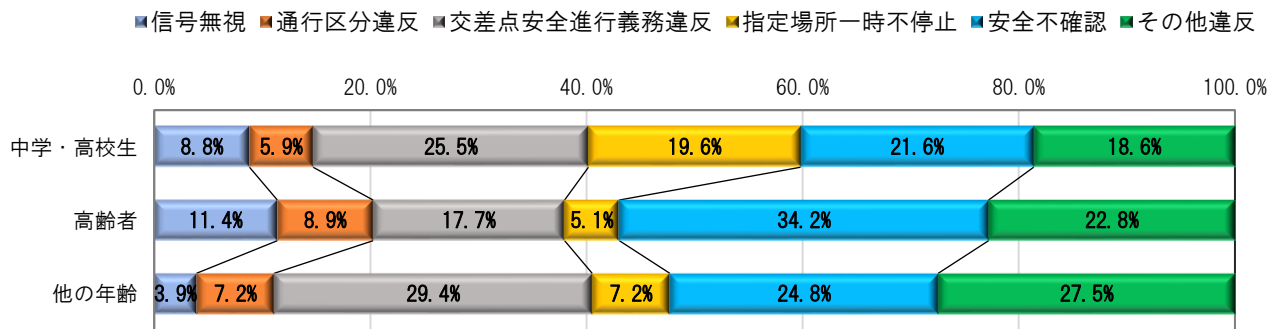


○ 中学・高校生は、市町村道が52.2%（152人）と半数以上を占める。

(4) 法令違反別死傷者数

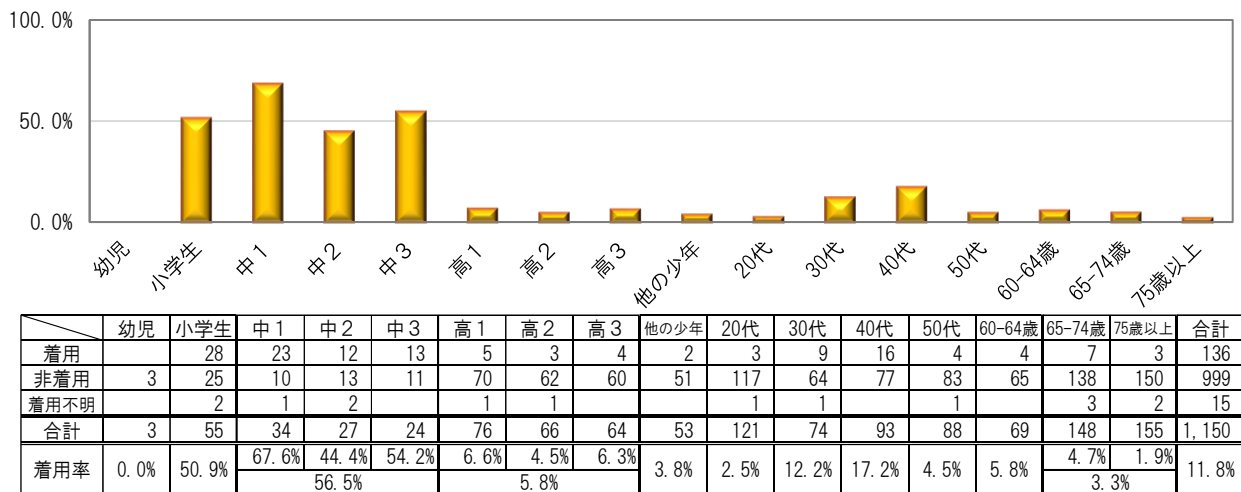
	信号無視	通行区分違反	交差点安全進行義務違反	指定場所一時不停止	安全運転義務違反				その他違反	違反あり合計	違反なし	合計
					安全不確認	前方不注意	動静不注視	その他				
中学・高校生	9	6	26	20	22	1	4	6	8	102	189	291
高齢者	9	7	14	4	27	2	3	5	8	79	224	303
他の年齢	6	11	45	11	38	1	8	14	19	153	403	556
合計	24	24	85	35	87	4	15	25	35	334	816	1,150

【違反ありに占める各違反の割合】



- 中学・高校生の死傷者の35.1%（102人）に何らかの法令違反があり、特に、指定場所一時不停止の違反割合が、高齢者の約3.8倍、他の年齢の約2.7倍
- 高齢者の死傷者の26.1%に何らかの法令違反があり、安全不確認の違反割合が34.2%と高い

(5) 学齢別・年代別の自転車乗用中死傷者のヘルメット着用率



- 自転車乗用中の死傷者のヘルメット着用率は11.8%
- 高校生の着用率は5.8%と、中学生の着用率（56.5%）と比較して低い
- 75歳以上の着用率は1.9%と、母数の少ない幼児を除いては最も着用率が低い